

第21回 奄美を描く美術展：審査概要（審査員長、内訳表）

審査員長 安達 博文(あだち ひろふみ)

1952年 富山県生まれ

1977年 東京芸術大学美術学部卒業・第51回国展出品(以後、毎回出品)

1979年 東京芸術大学大学院美術研究科修了・第53回国展国画賞受賞

1981年 文化庁芸術家国内研修員

1991年 文化庁派遣芸術家在外研修員(イタリア・フィレンツェ, '92まで)

1995年 平成7年度「とやま賞」受賞(財・富山県未来財団)

1997年 第40回安井賞展特別賞受賞

2018年 富山大学芸術文化学部教授定年退官(富山大学芸術文化部名誉教授)

審査員長総評

奄美を描く美術展には、奄美在住の方が日常の中で感じたことを描いた作品から、島外の方が南国のイメージを深めながら描いた作品など、様々な視点や異なる切り口から描かれた素晴らしい作品がたくさん集まっており、どの作品にもそれぞれの良さがありました。田中一村も独自の視点で奄美を表現することに成功した一人だと思います。

また、様々な素材を活かして、奄美を表現するという行為は、奄美の魅力を触覚的に再発見することに繋がります。奄美を描く美術展が奄美の魅力をより引き立てるものとして、これからも発展していくことを期待します。

内訳	出品点数	103点	入賞	12点
	出品者数	79人	入選	48点
	最年少	16歳	合計	60点
	最年長	85歳		
	初出品	22人		
年代別	10代…9人	20代…0人	30代…5人	40代…11人
	50代…8人	60代…11人	70代…26人	80代…9人
住所別	島内(奄美大島)		34人	
	群島		5人	
	奄美群島以外の鹿児島県		14人	
	県外		26人	
種類別	油彩		47点	
	アクリル, 水彩		35点	
	日本画, 墨		11点	
	版画		1点	
	工芸		5点	
	(芭蕉布・大島紬端切等)			
	その他		4点	
	(色鉛筆・クレパス・火山灰など)			